外来化学療法

18-2 集学的がん治療センター長・腫瘍内科学教授　元雄　良治

1．外来化学療法とは

化学療法とは、いわゆる「抗がん剤」でがんを治す、あるいは進行を防ぐ治療法のことで、点滴・注射薬と飲み薬（内服薬）による方法があります。

がんは早期発見すれば、手術を中心とした治療により完全に治る時代となりました。しかし、手術のみで完治しない可能性がある場合も、手術の前後で抗がん剤を使ったり、放射線療法を併用することにより、治癒を目指すことができるようになってきました。また、抗がん剤のみで完治する例もあります。

これまでは副作用の強い薬しかなかったため、抗がん剤治療は長期間の入院を要したのですが、最近は有効かつ副作用が少ない抗がん剤がいくつも開発され、必ずしも長期間入院する必要はなくなりました。これには、吐き気を防止する薬や白血球の減少に対する有効な薬が登場してきたことも大きく関係しています。抗がん剤治療を外来で安全に受けることができる時代になったのです。

患者さんが外来通院で化学療法を受けられることには、入院して治療を受けるのと異なり、会社に勤務するなどの社会生活を営み、自宅で家族や友人らと充実した生活を送りながら、自分のライフスタイルを維持できるという大きなメリットがあります。この場合、患者さん自身が副作用を観察し症状に合わせて体調を管理して、家族や友人らの支援を得ることが必要で、もちろん当センターではその面の助言や支援を行います。

2．集学的がん治療とは

「集学的」とは、いろいろな専門家の知恵を集めるという意味です。がん治療には手術・放射線照射・抗がん剤投与という３大療法がありますが、これらを適切に組み合わせ、個々の患者さんに最適な治療法を選ぶ必要があります。そのためにはこれら

お問い合わせ等は、下記へお願いいたします

金沢医科大学病院　医事課（電話）076-218-8211 直通
920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1　ijika@kanazawa-med.ac.jp　FAX 076-286-8371

の分野の専門家が知恵を集め、「チーム」となって患者さんに尽くすことが重要です。このがん治療チームには各分野の専門医師とともに、看護師・薬剤師・栄養士・臨床心理士なども参加し、皆で協力して患者さんが安心して治療を受けられるようにいたします。

3.「集学的がん治療センター」の役割

当センターは 2005 年 10 月に本学病院に新設されました。当センターは各診療科と協力連携して、外来化学療法を中心に、本学病院におけるがん医療への取り組みの調整などを総合的に行っています。

手術療法や放射線療法は従来どおり、各専門診療科が中心となって行いますが、特に外来化学療法の段階となった患者さんは、点滴治療をこのセンターにてできるようにするのが原則です。

抗がん剤の内容は、医師・薬剤師・看護師が何度も点検した上で点滴バッグ内に調合され、患者さんに点滴します。点滴中はリラックスしていただくためテレビを見たり音楽を聴いたりできるようにして、専任看護師が患者さんの状態をチェックいたします。